

この広報誌は赤い羽根共同募金の配分金で発行しました。

社会福祉法人 神戸市長田区社会福祉協議会だより

発行●社会福祉法人神戸市長田区社会福祉協議会
〒653-0016 神戸市長田区北町3-4-3 長田区総合庁舎内
TEL.078-511-4277 FAX.078-574-2427
http://www.nagatavc.org/
E-mail -n-syakyou@neo.famille.ne.jp



SORE-IKE NAGATA

No 24

平成24年4月号

なかがた

この広報誌は赤い羽根共同募金の配分金で発行しました。

ボランティアセンター

1.17 KOBEBEに 灯りをinながた



今年も新長田駅前広場で「1.17 KOBEBEに灯りをinながた」が開催されました。今年で14回目を迎えたこの追悼行事ですが、今年もたくさんのボランティアが来場の方がありました。ありがとうございます。
この追悼行事は、地域の保育所や学校などに協力いただき、灯籠に点すためのろうそくから手作りし、また当日もボランティアで参加いただいた方々に竹筒の募金箱やペットボトルの灯籠などを作っていただきました。
今年は昨年の東日本大震災のこともあり、3.11と1.17どちらにも思いを馳せられる方が多く見受けられました。様々な思いで灯籠に灯を点していただけたと思います。
今年の1.17の会場でも東日本大震災の被災地支援として、交流ブースを設けました。被災地の方などに来ていただき、神戸の復興を見ていただいたりブース内の学生やスタッフと交流し、新たなネットワークにもつながりました。
本当にたくさんの方に協力いただき、ありがとうございました。

子どもいちば

作業所でモノづくりに学び、長田中央市場の店主に商売の秘訣を教えてもらい区内4校(室内・長田・宮川・雲雀丘小学校)の小学生たちが作業所でつくった自分たちの商品と作業所の商品を販売しました。今年は東日本大震災を応援するため、被災地の作業所の商品も販売!!皆様の協力で多くの商品が売れました。



手話をいっしょに学びませんか?

手話入門講座 受講生募集

日時:6月19日(火)~11月20日(火)
※8月14日(火)は休講
毎週火曜日(全22回)14:00~16:00
場所:新長田勤労市民センター
(若松町5-5 ジョイプラザ3階)
内容:手話の実技を通して、聴覚障がいのある方への理解と知識を身につける。
対象:初めて手話を学ぶ方、6ヶ月間受講ができる方
募集人数:30名

(申込み多数の場合は抽選)
受講料:5,000円
(テキスト代別途1,200円程度)
申込み方法:往復ハガキに住所・氏名(ふりがな)・年齢・連絡先をご記入の上
〒653-8570 長田区社会福祉協議会
まで(住所の記入は必要ありません)
5月31日(木)必着
お問合せ先:長田区社会福祉協議会
電話:511-4277

編集後記**平成23年3月11日に発生した東日本大震災から丸1年が過ぎました。阪神淡路大震災の時の記憶を思い起こしながら、記録報道を見ていました。地震のその次の年に支援が必要だった事を思い出し、今年も継続して東日本の被災地を応援しようと思います。(オ)

新商品

長田ボランティアセンターは小規模作業所新商品開発実行委員会を応援しています!
小規模作業所新商品開発実行委員会とは長田区を中心とした神戸市内の12の小規模作業所のネットワークです。良い商品、売れる商品を作るために毎月5日に「改革の日」会議を開いています。協力しあいがら商品開発や販売、勉強会、イベントなど様々なチャレンジをしています。昨年に見本市が行われた作業所仲間のギフトブランド、「神戸ハンドメイドコレクション社」もこのようになつながらの中で誕生しました。みなさんも応援して下さいね。
【小規模作業所とは障がいのある方たちが社会参加を目指している様々な作業や製品づくりをしている場所です。】

『作業所仲間の雑貨屋さん』バザー

3月1日(木)・2日(金)
長田公民館ひと・まち出会いフェスティバルの会場で行った作業所が協働でひとつのお店を開店しました。



仲間が協力すれば一つの作業所だけでは大変なことも楽しく活動出来ます。

『神戸ハンドメイドコレクション 社』見本市II

3月17日(土)
元町ハートミュージアム会場で行われました。
手造りのちょっとしたいいものを神戸のおみやげとして使ってもらいたい。そんな気持ちを込めました。



絵本を作りましょう!

誰でもわかりやすく認知症を理解できる学習教材を作ろうと、区内の福祉施設の職員を中心に制作委員会が立ち上げられました。
年齢を問わず受け入れてもらえる教材は何か?と考へて出た案が「絵本」です。
それも子どもが描く感性豊かな絵を本の絵に採用して、身近な問題として捉えてもらうと、区内の小学生に描いてもらうことになりました。
そこで、二月十九日(日)の午後、認知症学習絵本を作成するワークショップ「絵本を作りましょう!」が開催されました。
小学校四、五、六年生を対象に、学校を通じて募集をした結果、八十二名が応募、七十三名の参加がありました。
当日はこの学習絵本のために作成された物語を聞いてもらい、絵画教室講師の指導を受けて、担当シーンごとに別れて作業を始めました。まず描きたいものをグループで考え、文字で書いてみます。文字化で絵が描きやすくなったのか、絵を描き始めると、ほとんど筆が進んでいきました。
皆、自分の絵が選ばれるようにと願いを込めて、真剣に描いていました。
途中で講師からのアドバイスを受け、時にはボランティアの方に相談しながら、約二時間で全ての絵が完成しました。
ボランティアとして参加してくださった方たちも、子どもたちの熱い気持ちを肌で感じ、良い刺激になったようです。
「違う学校の人と友達になれた(参加児童)」「絵で(小学生と)通じるのって良いですね(ボランティア)」という声をいただいています。
教材としての「絵本」という目に見える形だけでなく、大勢の人のつながりも結ぶことができた事業でした。

東北支援活動紹介



阪神・淡路大震災から17回目の1月17日を迎え、区内の各種の催しで、東北の被災地を支援する取り組み

が行われました。

昨年11月13日(日)に新長田「鉄人広場」で行われた「一七市拡大版」では、東北支援として、同じ震災を経験した神戸の気持ちをエコバックに描いて、宮城県気仙沼市の障害者の勤務する作業所に送りました。また、今年1月17日(火)に行われた「1.17KOBEBEに灯りをinながた」では、「東日本大震災支援、交流コーナー」が設けられ、東日本大震災の被災者で神戸に避難された方との交流をはかり、さらに生活必需品などを提供しました。



東日本大震災救援募金 募金額ご報告

昨年3月11日に発生した東日本大震災から1年が経ちました。長田区社会福祉協議会では復興活動に役立てていただくため、募金活動を推進してまいりました。ご協力いただきました募金は、7,755,838円(3月23日現在)となりました。

ご協力いただきましたみなさまに心よりお礼を申し上げます。



隠れ忍者をさがせ!

「こんなこと聞いてない!」ではなく、ハプニングも楽しんで大人と子どもがわくわくしながら町を舞台にダイナミックな遊びを行いました。終了後には「忍者おったで?」「巻物もらった?」「子どもたちの満足したにこにこ顔が見られました。」

和歌山那智勝浦ボランティアバス報告

平成23年9月中旬の台風12号・15号で土石流などの被害を被った和歌山県的那智勝浦町へ、神戸常盤ボランティアセンター・長田区社会福祉協議会・神戸市社会福祉協議会の3者でボランティアバスを運行し、被災地支援活動を行いました。



参加者は合計で43名、中型バス2台で9月23日の夜に神戸を出発し、24日早朝から丸1日活動して戻る行程です。現地では那智勝浦災害ボランティアセンターの案内で、5名ずつの班に分かれ、那智川沿いの川関地区という集落で、民家の床の泥掻き出しや廃棄物の運搬などの作業を行いました。報道で見るよりも家屋被害が大きく、現地ではボランティアによる人力作業が大きく役に立ったと思います。長田ボランティアセンターには災害ボランティア基金という、近畿2府4県での広域災害に対して、支援を行う準備基金があります。お互いの善意の助け合いの送金先は下記の通りです。

募金振込先 銀行・支店名 三井住友銀行 長田支店 口座番号 普通 7637307
口座名義 神戸市長田区社会福祉協議会 長田ボランティアセンター
※事務局のある長田ボランティアセンター窓口でも募金受付をしています。

長田区善意銀行にご寄付いただきました ありがとうございます (平成23年8月~24年2月)

アスタ公園通り会・重池保育所・長田喫茶飲食組合(株)マルハン(株)美和インターナショナル(株)青山・給食ボランティア会・長田高校PTA・長田愛の園すこやかセンター・グリーンウェル花山・少年団野球リーグ・福田董・岡本富美子・須磨の浦の里デイサービス・北町ふれあいのまちづくり協議会・瀧本雄一郎・NPO法人神戸定住外国人支援センター(有)宮前写真場・長田神社・中川衣裳店・兵庫弥生美容室・石原操・日本ケミカルシューズ工業組合青年部会・武庫川女子大学・電気のマツナガ・西神戸モラロジー事務所・須磨南部連合自治会・大谷町3丁目北部自治会・池田サークル・大谷公園管理会・浜1自治会・コープ長田委員会・2.1まちづくりふれあいボランティア・長田小学校施設開放運営委員会・長楽ふれあいのまちづくり協議会・南須磨ふれあいのまちづくり協議会・千歳地区連合自治会・番町地区ふれあいのまちづくり協議会・茂山秀一・茂山京子・他匿名多数(順不同、敬称略)

あそびにおいでよ! 児童館

その⑧

大日丘児童館

児童館

大日丘町 3-8-10

「忍者修行」

今年で3回目を迎えたこの修行。まずは、ふろしきをかぶって忍者に変身。「目」「耳」「合図」「長剣」「隠れ身」とゲームを修行に見立てた導入劇で子どもたちの気持ちが高まってきました。そして「隠れ忍者をさがせ!」の指令書に従って町へ出発。ヒントは「まじめそうな人」。合言葉は「何時ですか?」「この2つを手がかりに道行く人に声をかけ、忍者を探します。民生児童委員の皆さんの協力を頂いて、一応の流れはあるものの「こんなこと聞いてない!」ではなく、ハプニングも楽しんで大人と子どもがわくわくしながら町を舞台にダイナミックな遊びを行いました。終了後には「忍者おったで?」「巻物もらった?」「子どもたちの満足したにこにこ顔が見られました。」



忍者に変身

平成23年度 共同募金・歳末たすけあい募金報告



昨年10月から1月末まで行った、共同募金・歳末募金は、おかげさまで10,845,759円になりました。ご寄付をいただきました方々や募金活動にご協力いただいた、婦人会・自治会・民生委員・子ども会・学生のボランティアの皆様にお礼を申し上げます。

《平成23年度 募金内訳結果》

	目標額	実績
赤い羽根共同募金	6,433,000円	6,091,418円
歳末たすけあい募金	5,000,000円	4,754,341円
合計	11,433,000円	10,845,759円

じぶんの町を良くするしくみ。 ~ありがとうメッセージ~



赤い羽根共同募金から

小学生の体力の向上と学校間の親善を目的とした「第1回長田区小学生ドッジボール大会」を開催し、ゼッケンなどの備品購入に活用させていただきました。12チームが参加し父兄の方も多く来られ、盛況に開催できました。(長田区体育協会)

試合球を購入しました。また、6年生卒業記念大会の記念品を購入させていただきました。子供たちも本当に喜んでいました。ありがとうございました。(神戸市少年団野球リーグ長田地区委員会)



芝田カナエ基金より ありがとうメッセージ

「グリーンコート新生より」 「芝田カナエ基金」の助成金によりホットプレートと電子ピアンを購入しましたことをご報告いたします。ホットプレートは12月のクリスマス会で焼肉をするときに使用しました。電子ピアンは子どもたちも大喜びし、ヘッドフォンを使って、順番で弾いています。あるお母さんは「好きなピアノを弾くことで心が癒されました」と言われています。ありがとうございます。 というお礼の言葉をいただきました。芝田カナエ基金は「子ども健全育成のため活用してほしい」との寄付者の意向により使用目的を児童に限定し運営しています。

今年も共同募金にご協力お願いします。

みなさまの真心の募金によって、長田区のさまざまな福祉活動に役立っています。募金活動を推進して下さっているボランティアや地域の方々今年もご協力をお願いします。詳しくは 長田区共同募金委員会 へお問い合わせください。 〒653-0016 神戸市長田区北町3丁目4番地の3 長田区役所 4階 TEL 078(511)4277 FAX 078(574)2427

歳末たすけあい募金から

重池ふれあい食事会では、毎月第4土曜日お昼12時より、65歳以上のひとり暮らしの方を対象に食事会を開催しています。この度は、歳末たすけあい募金の助成をいただき大変ありがとうございました。今年度は、9月の敬老会のお祝いとしておまんじゅうを、また、12月のクリスマス会にケーキを特別に皆様にお配りさせていただきました。これからも参加していただいた方に少しでも喜んでいただけるよう、スタッフ一同栄養バランスの良い献立を作っていきたいと思っております。(給食サービスグループ「重池ふれあい食事会」)

その他、見守りが必要な75歳以上のひとり暮らし高齢者への見守り事業、高齢者等を対象にした給食サービス事業や、障害者福祉団体等、交通・震災遺児に対し、支援をさせていただきました。本当にありがとうございました。

善意の輪数珠つなぎ

この冬日本列島各地は、記録的な大雪に見舞われました。比較的雪の少ない西日本地方でも、日本海側を中心に例年にならない積雪となり、屋根の雪の掻き下ろしに難渋する高齢者の姿が、ニュース等で伝えられました。昨年2月、2月のニュージラント地震をはじめ、3月11日は、東北、北関東地方に多くの犠牲者と甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生し9月は、台風12号、15号による相次ぐ豪雨により、紀伊半島、特に和歌山県に土砂災害が発生し、大きな被害をもたらしました。近年の災害は、「想定外」という言葉がよく使われるようになってきた規模、被害の大きさから見て、被災地の方々に寄り添うことが求められています。神戸では、今年、震災から17回目の1月17日を迎えましたが、ふり返れば、その道のりは平坦なものでもなかったはずですが、東北の被災地も震災発生から一年が経過した今、新たな段階の課題に直面されている状況ではないかと思えます。昨年、災害に遭われた、それぞれ被災地の被災者の方に改めて励まし、の力を改めて励ましのエールを送りたいと思います。

